

東海学院大学・東海学院大学短期大学部公開講座 2018

「豊かに生きる ～大学は知の宝庫～」

第2回 10/5 (金) 13:30～15:00 報告

病院でうける検査のはなし

講師 徳野治 (本学講師)

於：図書館大セミナー室

◆◆◆◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*

本学健康福祉学部管理栄養学科の徳野治先生による「病院でうける検査のはなし」が開催され、参加者は39名でした。

まず初めに徳野先生から、以前に病院で臨床検査技師をされていたという自己紹介がありました。現在は管理栄養学科の所属であること、管理栄養学科に属する臨床検査技師の養成は本学の特徴であることの紹介がありました。

本題の「病院でうける検査のはなし」は、だれでも病院にかかって一度は検査を受けたことがある、とても身近なおはなしでした。検尿のための採尿室でのコップ受け渡し窓口の視線が気になるという、参加者みんなが共感できるおはなしからのスタートでした。

検査にはたくさんの種類があるけれど、今回はとくに検体検査のおはなしでした。検体検査とは、尿や血液などの検査材料を使って検査をするものです。それらの材料からいったい何がわかるのか、参加者は興味津々です。

最初に尿検査のおはなしでした。定性検査・形態学的検査・微生物学的検査など、尿検査と言ってもさまざまな種類があり、それぞれの目的によって行われているとのこと。肉眼でも確認できるような色・にごりや血尿、尿をさらに培養することでわかる感染症などもあり、とても奥が深いことがわかりました。

続いては血液生化学的検査についてのおはなしでした。病院でうけると検査結果用紙の中で、一番たくさんの面積を占める検査です。白血球・赤血球さらに小さな血小板など顕微鏡でしかみられない画像もたくさん見ることができました。また、肝臓の酵素や血中脂質など、さまざまな検査結果の解釈の仕方についてのおはなしがありました。

講演後に参加者から多くの質問があり、活発な意見交換がありました。

今回の講演ではたくさんの症例を提示していただき、なにが原因かを究明していく楽しさや意味深さについて少しだけ経験したような気分を味わうことができました。また、検査をする中でわかる医療者側の人為的なミスや、尿の出ない患者が検尿のかわりに水を提出してしまうケースもあると聞き、これから検査をうける側の患者としての心構えを再確認することができた講演となりました。

【講座の様子】

